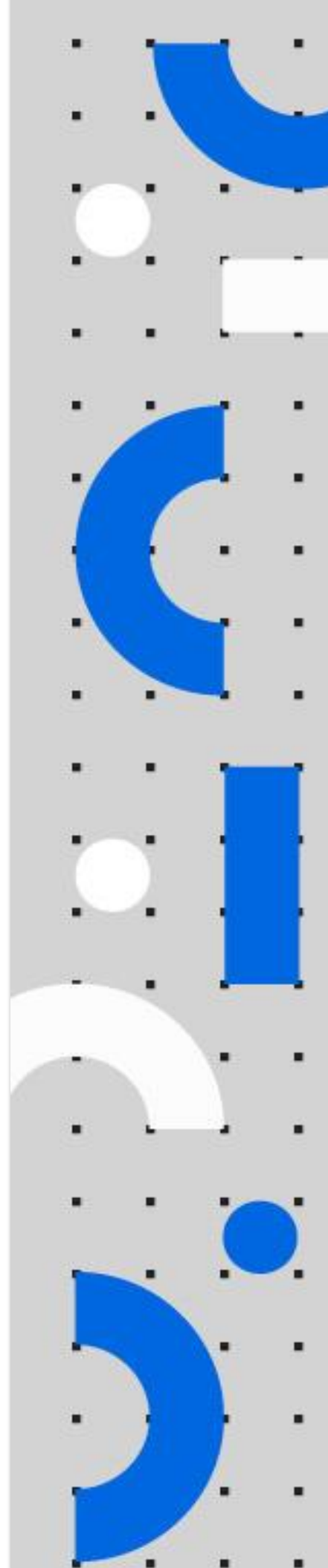


UiPath Orchestrator 導入 ステップバイステップガイド

v2020.10 対応版



リビジョン履歴

Date	Version	Author	Description
9 th June 2018	2018.2	Hideaki.F	First version for v2018.2 release
1 st Nov 2018	2018.3	Hideaki.F	Updated for v2018.3 release
31 st May 2019	2019.4	Hideaki.F	Updated for v2019.4 release
14 th Nov 2019	2019.10	Hideaki.F	Updated for v2019.10 release
18 th May 2020	2020.4	Hideaki.F	Updated for v2020.4 release
22 nd Dec 2020	2020.10	Hideaki.F	Updated for v2020.10 release

商標について

- UiPath のソフトウェア、製品、サービス、(これには、UiPath Orchestrator、UiPath Robot、UiPath Studio が含まれますが、これらに限りません) はアメリカ合衆国で登録された UiPath Inc.、 および 他の国・地域で登録された UiPath の関係会社の商標または登録商標です。 UiPath のロゴは UiPath Inc. が所有するものであり、UiPath の事前の明示的な許可なく、お客様及びその他の方が使用することはできません。
- Microsoft のソフトウェア、製品、サービス (これには、Microsoft、Windows、Windows Server、SQL Server 及び Active Directory が含まれますが、これらに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Microsoft Corporation 及び他の国・地域で登録されたその関係会社の商標または登録商標です。
- Oracle のソフトウェア、製品、サービス (これには、Java も含まれますがこれに限りません) は アメリカ合衆国で登録された Oracle 及びその他の国・地域で登録された関係会社の商標または登録商標です。
- Elastic は、Elastic N.V. 及びその関係会社の商標または登録商標です。
- Redis は、Redis Labs Ltd の商標です。
- その他、記載されている製品名、会社名およびサービス名はそれぞれの各社の商標または登録商標です。

免責事項

- 本ガイドの内容は 2020 年 12 月現在の情報であり、下記の製品リリースに基づいております。
 - UiPath Orchestrator v2020.10
- 製品の新しいリリース、修正プログラムなどによって、本ガイドの説明と異なる動作・仕様となる可能性がありますので、予めご注意ください。
- 本ガイドに含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、UiPath 株式会社の正式なドキュメントではありません。本ガイドに記載された内容に関して UiPath 株式会社は何ら保証していません。従って、本ガイドに含まれる情報の利用はお客様の責任においてなされるものであり、UiPath はガイドの内容によって受けたいかなる被害に関して一切の補償をするものではありません。
- 本ガイドは UiPath を法的に拘束する書類ではありません。UiPath はお客様に通知なくして、本ガイドの内容の一部または全部を修正及びアップデートできます。
- お客様は UiPath および執筆者の書面の承諾なしで本ガイドを複製、修正、頒布できません。

目次

内容

リビジョン履歴.....	1
商標について.....	2
免責事項.....	2
目次.....	3
1. はじめに.....	4
1.1. 本文書の目的と前提条件.....	4
1.2. Orchestrator v2020.10 での注意事項.....	5
2. Orchestrator インストール前の準備.....	6
2.1. 必要なコンポーネントのダウンロード.....	6
2.2. 前提条件のコンポーネントのインストール.....	7
2.3. サーバー証明書のインストール.....	11
2.4. SQL Server のインストールと設定.....	13
3. Orchestrator インストール手順.....	17
3.1. 構成に応じた手順の概要.....	17
3.2. Orchestrator インストール (スタンドアローン構成).....	17
4. Orchestrator 動作確認と初期設定.....	22
4.1. Orchestrator インストール確認と初期設定.....	22
4.2. UiPath Robot / Studio との接続設定.....	26
5. 技術支援のご案内.....	28

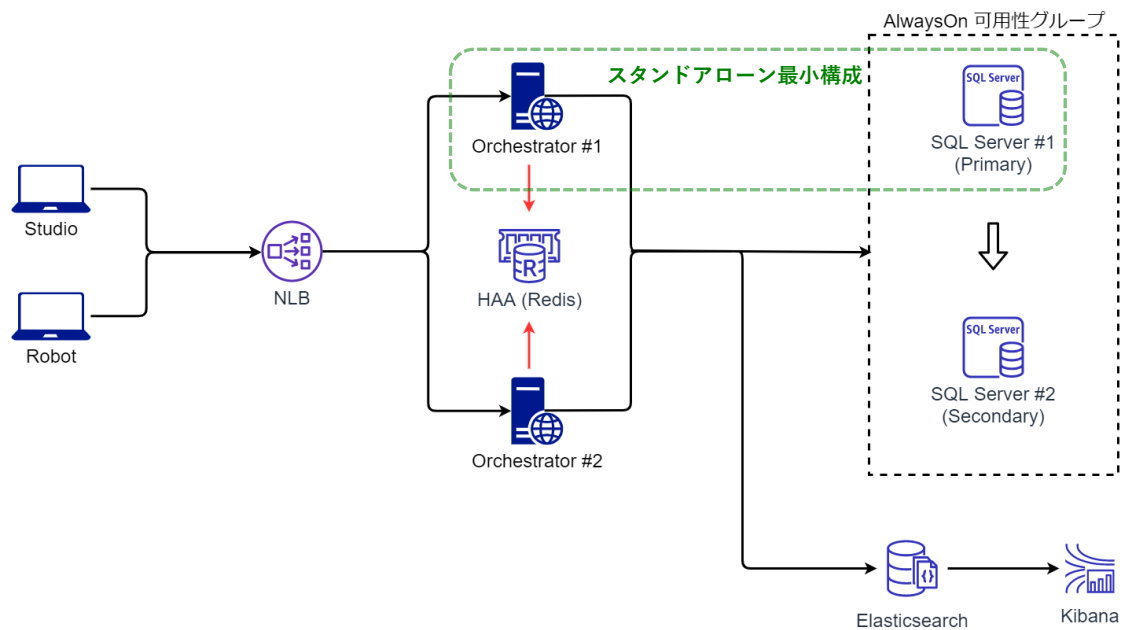
1. はじめに

1.1. 本文書の目的と前提条件

- 本文書では Orchestrator v2020.10 を Windows Server 2016 (日本語) にインストールする手順について説明します。スクリーンショットは主に Windows Server 2016 環境で取得していますが、手順は Windows Server 2012 R2 および 2019 においても同様です。
- 本文書は Orchestrator v2018.4、v2019.10 および v2020.4 にも対応しております。Orchestrator のバージョンに依存する手順については、下記の注意書きを適宜加えております。

注意書き	v2018.4	v2019.10	v2020.4	v2020.10
【OC v2018.4】	○	×	×	×
【OC v2019.10 以前】	○	○	×	×
【OC v2020.4 以前】	○	○	○	×
【OC v2019.10 以降】	×	○	○	○
【OC v2020.4 以降】	×	×	○	○
【OC v2020.10】	×	×	×	○
注意書き無し	○	○	○	○

- Orchestrator 各バージョンにおけるサポート期間については [プロダクトライフサイクル](#) をご参照ください。既にサポート終了となっている Orchestrator v2018.3 以前と v2019.4 については対象外としております。
- 本文書を参照するにあたり下記の事項が前提知識となります。
 - Windows Server の概要と基本操作
 - IIS (インターネットインフォメーションサービス) の概要と基本操作
 - SQL Server の概要と基本操作
 - UiPath Orchestrator の概要: <https://www.uipath.com/ja/product/orchestrator>
- システム要件は Web サイトのガイドを参照してください。
 - ハードウェア要件: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/orchestrator-hardware-requirements>
 - ソフトウェア要件: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/orchestrator-software-requirements>
- 最小構成では Orchestrator と SQL Server をそれぞれインストールするために 2 台の Windows Server を準備します。検証環境では共存も可能ですが、本番環境では分離することを強く推奨します。なお冗長構成や Elasticsearch を使用する場合には、更に多くの台数のサーバーマシンが必要となります。
 - 構成の一例を下記に示します。緑点線で囲まれた 2 台構成がスタンドアロン最小構成となります。



- Network Load Balancer (NLB) の構成、HAA (Redis) の構成、SQL Server の冗長化、Elasticsearch の冗長化については本文書では取り扱いません。

1.2. Orchestrator v2020.10 での注意事項

- 【OC v2020.10】 Orchestrator サイトのアプリケーション設定を行う設定ファイルが、従来の Web.config から UiPath.Orchestrator.dll.config というファイルに変更となりました。サイトの設定変更を行う際には編集するファイルにご注意ください。
- なお旧バージョンからのアップグレード時には設定は自動的に引き継がれます。

2. Orchestrator インストール前の準備

2.1. 必要なコンポーネントのダウンロード

前提条件となる次のコンポーネントをダウンロードします。

- Orchestrator
 - .NET Framework 4.7.2: <https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4054530/microsoft-net-framework-4-7-2-offline-installer-for-windows>
 - または .NET Framework 4.8: <https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4503548/microsoft-net-framework-4-8-offline-installer-for-windows>
 - ✧ 【OC v2019.10 以降】 前提条件の .NET Framework バージョンは **4.7.2** 以上となっています。
 - ✧ Windows Server 2012 R2 で .NET Framework をインストールするには、あらかじめ **KB2919355** が適用されていることを確認します:
<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=42334>
 - 【OC v2020.4 以降】 .NET Core 3.1 Hosting Bundle:
<https://dotnet.microsoft.com/download/dotnet-core/3.1>
 - ✧ 3.1.x 最新版の Windows -> [Hosting Bundle] をクリック
 - URL Rewrite 2.1: <https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite>
 - ✧ English: x64 を使用
 - Orchestrator ロール設定スクリプト:
<https://raw.githubusercontent.com/UiPath/Infrastructure/master/Setup/InstallRolesAndFeatures.ps1>
 - 最新版 Orchestrator インストーラー: <https://download.uipath.com/UiPathOrchestrator.msi>
- Microsoft SQL Server
 - 適切なエディションのメディアを準備します。
 - ✧ 検証目的の場合では Express Edition も使用可能です:
<https://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=55994>
 - ✧ SQL Server 2017 Express Edition の制限事項についてはこちらをご参照ください。
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/sql-server/editions-and-components-of-sql-server-2017?view=sql-server-2017>
 - ✧ なお Orchestrator 本番環境では Express Edition の SQL Server はサポートされません。
 - Microsoft SQL Server Management Studio (SSMS):
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms>
- 注意:
 - 旧バージョン Orchestrator インストーラーが必要な場合には UiPath 社までお問い合わせください。
 - 前提条件のそれぞれのコンポーネントと UiPath インストーラーをダウンロードした後、それぞれのファイルを右クリック→プロパティを開き、セキュリティ「許可する」チェックをオンにします。



2.2. 前提条件のコンポーネントのインストール

- Orchestrator をインストールするサーバーでロール設定スクリプトを実行し、必要な役割と機能を有効にします。
 - InstallRolesAndFeatures.ps1 をローカルディレクトリにコピーします。
 - Windows PowerShell (64 ビットモード) を管理者として実行します。
 - 次のコマンドを実行し、PowerShell スクリプトの実行を許可します。

Set-ExecutionPolicy Unrestricted

- 解凍ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行し、エラーが発生しないことを確認します。

.\InstallRolesAndFeatures.ps1

```

管理: Windows PowerShell
PS C:\Orchestrator20.10> Set-ExecutionPolicy unrestricted

実行ポリシーの変更
実行ポリシーは、信頼されていないスクリプトからの保護に役立ちます。実行ポリシーを変更すると、about_Execution_Policies
のヘルプトピック (https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=85179)
で説明されているセキュリティ上の危険にさらされる可能性があります。実行ポリシーを変更しますか?
[Y] はい(Y) [A] すべて続行(A) [N] いいえ(N) [L] すべて無視(L) [S] 中断(S) [?] ヘルプ (既定値は "N") : y
PS C:\Orchestrator20.10> .\InstallRolesAndFeatures.ps1
Checking for feature IIS-DefaultDocument Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-HttpErrors Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-StaticContent Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-RequestFiltering Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-CertProvider Enabled/Disabled => Disabled
Installing feature IIS-CertProvider
Path :
Online : True
RestartNeeded : False

Checking for feature IIS-IPSecurity Enabled/Disabled => Disabled
Installing feature IIS-IPSecurity
Path :
Online : True
RestartNeeded : False

Checking for feature IIS-URLAuthorization Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ApplicationInit Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-WindowsAuthentication Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-NetFxExtensibility45 Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ASPNET45 Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ISAPIExtensions Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ISAPIFilter Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-WebSockets Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ManagementConsole Enabled/Disabled => Enabled
Checking for feature IIS-ManagementScriptingTools Enabled/Disabled => Disabled
Installing feature IIS-ManagementScriptingTools
Path :
Online : True
RestartNeeded : False

Checking for feature ClientForNFS-Infrastructure Enabled/Disabled => Disabled
Installing feature ClientForNFS-Infrastructure
Path :
Online : True
RestartNeeded : False

Features installed
PS C:\Orchestrator20.10>
    
```

- サーバーマネージャーで役割と機能の追加ウィザードを起動し、次の役割と機能がインストールされていることを確認します。

サーバーの役割	
☒ Web サーバー (IIS) ☒ Web サーバー ☒ HTTP 共通機能 ☒ HTTP エラー ☐ ディレクトリの参照 ☒ 既定のドキュメント ☒ 静的なコンテンツ ☐ HTTP リダイレクト ☐ WebDAV 発行 ☒ セキュリティ ☒ 要求フィルター ☐ IIS クライアント証明書マッピング認証 ☒ IP およびドメインの制限 ☒ SSL 証明書の集中サポート ☒ URL 承認 ☒ Windows 認証 ☐ クライアント証明書マッピング認証 ☐ ダイジェスト認証 ☐ 基本認証 ☐ パフォーマンス ☐ 静的なコンテンツの圧縮 ☐ 動的なコンテンツの圧縮 ☐ 状態と診断 ☐ HTTP ログ ☐ ODBC ログ ☐ カスタム ログ ☐ トレース ☐ ログ ツール ☐ 要求の監視 ☒ アプリケーション開発 ☐ .NET 拡張機能 3.5 ☒ .NET 拡張機能 4.6 ☒ Application Initialization (※ 注 2) ☐ ASP ☐ ASP.NET 3.5 ☒ ASP.NET 4.6	Web-Server Web-WebServer Web-Common-Http Web-Http-Errors Web-Dir-Browsing Web-Default-Doc Web-Static-Content Web-Http-Redirect Web-DAV-Publishing Web-Security Web-Filtering Web-Cert-Auth Web-IP-Security Web-CertProvider Web-Url-Auth Web-Windows-Auth Web-Client-Auth Web-Digest-Auth Web-Basic-Auth Web-Performance Web-Stat-Compression Web-Dyn-Compression Web-Health Web-Http-Logging Web-ODBC-Logging Web-Custom-Logging Web-Http-Tracing Web-Log-Libraries Web-Request-Monitor Web-App-Dev Web-Net-Ext Web-Net-Ext45 Web-Applnit Web-ASP Web-Asp-Net Web-Asp-Net45

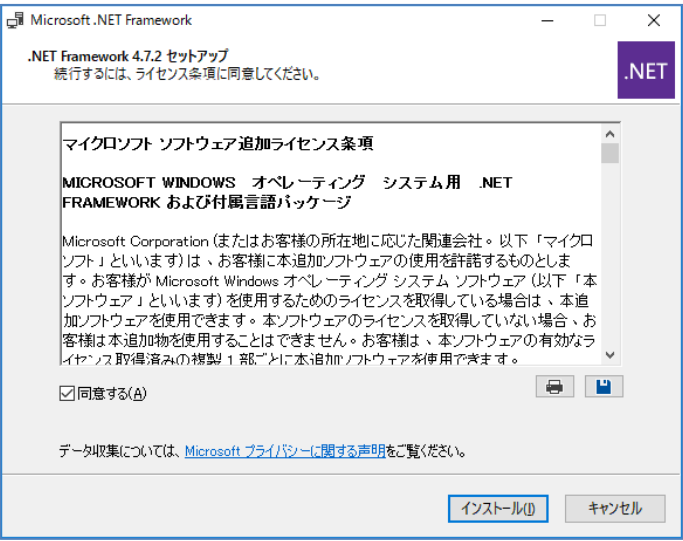
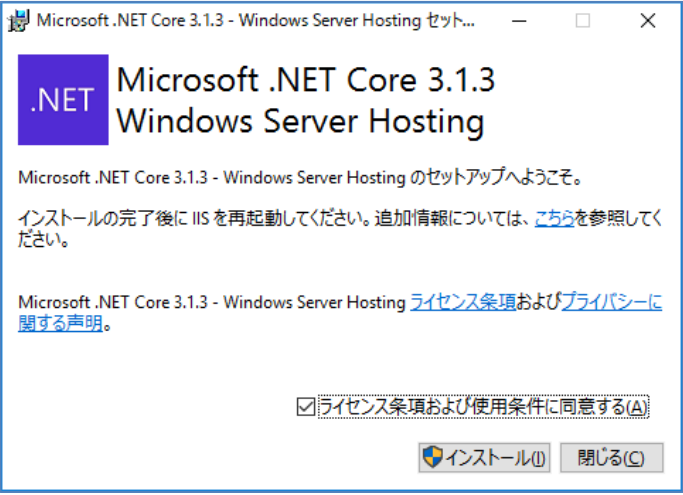
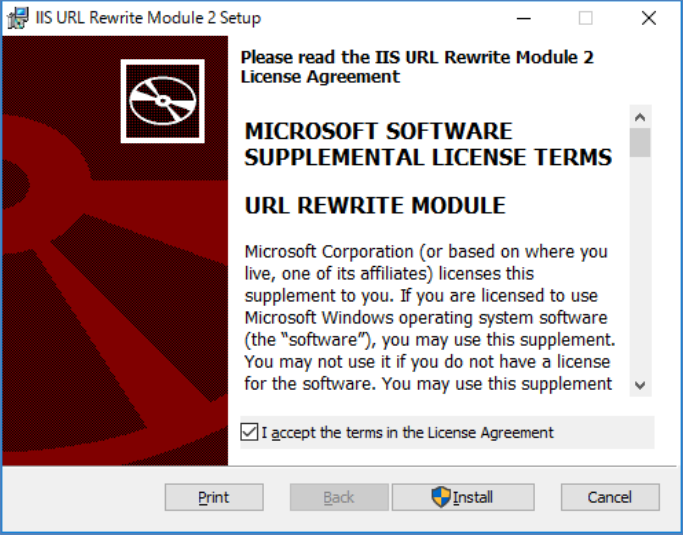
☐ CGI ☒ ISAPI フィルター ☒ ISAPI 拡張 ☒ WebSocket プロトコル ☐ サーバー側インクルード ☐ FTP サーバー ☐ FTP サービス ☐ FTP 拡張 ☒ 管理ツール ☒ IIS 管理コンソール ☐ IIS 6 管理互換 ☐ IIS 6 メタベース互換 ☐ IIS 6 WMI 互換 ☐ IIS 6 スクリプト ツール ☐ IIS 6 管理コンソール ☒ IIS 管理スクリプトおよびツール ☐ 管理サービス	Web-CGI Web-ISAPI-Filter Web-ISAPI-Ext Web-WebSockets Web-Includes Web-Ftp-Server Web-Ftp-Service Web-Ftp-Ext Web-Mgmt-Tools Web-Mgmt-Console Web-Mgmt-Compat Web-Metabase Web-WMI Web-Lgcy-Scripting Web-Lgcy-Mgmt-Console Web-Scripting-Tools Web-Mgmt-Service
機能	
☒ .NET Framework 4.6 Features ☒ .NET Framework 4.6 ☒ ASP.NET 4.6 ☒ WCF サービス ☐ HTTP アクティブ化 ☐ TCP アクティブ化 ☒ TCP ポート共有 ☐ メッセージ キュー (MSMQ) アクティブ化 ☐ 名前付きパイプのアクティブ化 ☒ NFS クライアント (※ 注 3)	NET-Framework-45-Features NET-Framework-45-Core NET-Framework-45-ASPNET NET-WCF-Services45 NET-WCF-HTTP-Activation45 NET-WCF-TCP-Activation45 NET-WCF-TCP-PortSharing45 NET-WCF-MSMQ-Activation45 NET-WCF-Pipe-Activation45 NFS-Client

- 注意 1: PowerShell スクリプトの実行が失敗する場合には、上記の役割と機能をサーバーマネージャーにより手動で追加します。
- 注意 2: 【OC v2020.4 以降】アプリケーション開発 > **Application Initialization** は v2020.4 以降で必須となります。Orchestrator アップグレード時などにおいて、この機能を個別にインストールするには管理者権限 PowerShell コンソールで次のコマンドを実行します。

```
Install-WindowsFeature -Name Web-AppInit
```

- 注意 3: NuGet パッケージディレクトリとして NFS ストレージを使用する場合に NFS クライアントが使用されます。不要な場合にはこの機能を削除しても構いません。

- 次のコンポーネントを順次インストールします。

	.NET Framework 4.7.2 または 4.8
	【OC v2020.4 以降】.NET Core 3.1 Hosting Bundle
	URL Rewrite 2.1

2.3. サーバー証明書のインストール

- IIS にて HTTPS 通信を行うためサーバー証明書をパブリック証明機関 (CA)、ドメイン証明機関 (CA) または自己署名にて発行します:

<https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/using-a-certificate-for-the-https-protocol>

- 【OC v2020.4 以降】 インストール時のサーバー証明書のチェックが厳格になっています。ドメイン証明書を使用する場合は次の点に注意してください。

- 公開鍵のサイズは RSA 2048 bit 以上で発行します。RSA 1024 bit の場合にはエラーとなります。
- CRL (証明書失効リスト) が Orchestrator をインストールするマシン上にキャッシュされていない場合には、次の手順でサーバー証明書の CRL 配布ポイントにアクセス可能であることを確認します。

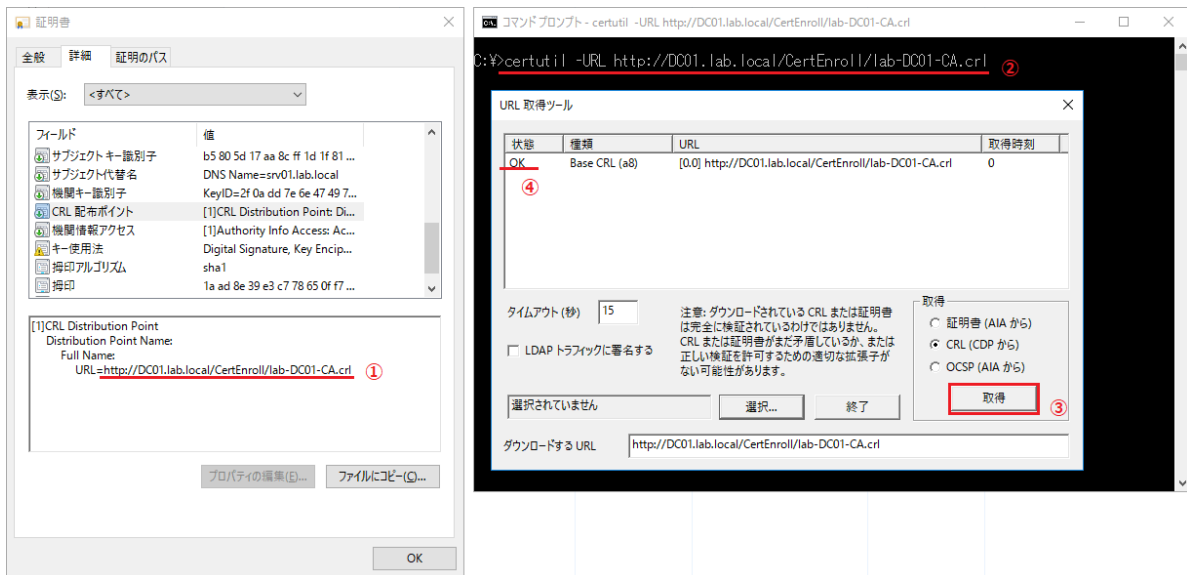
✧ ① サーバー証明書の詳細 → CRL 配布ポイントの URL を確認します。

✧ ② コマンドプロンプトにて次のコマンドを実行します。

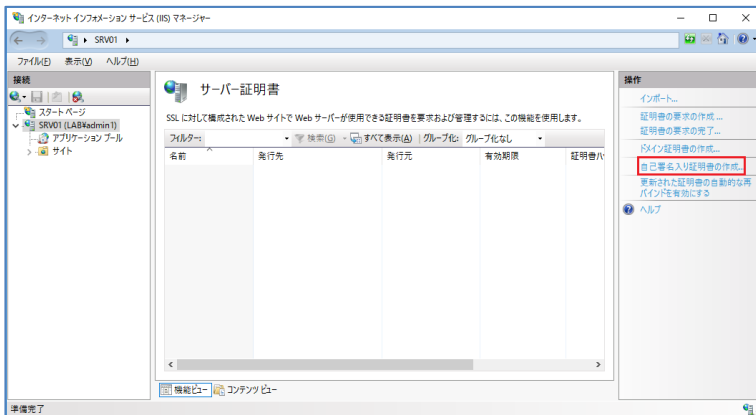
```
certutil -URL <CRL 配布ポイントの URL>
```

✧ ③ URL 取得ツールにて [取得] ボタンをクリックします。

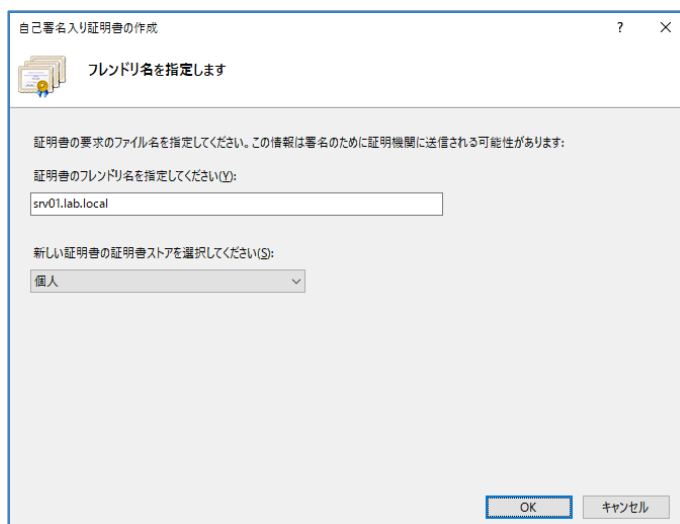
✧ ④ 状態が「OK」と表示されることを確認します。



- 自己署名証明書を発行するには次の手順を実行します。なお自己署名証明書は検証環境でのみ使用することを推奨します。



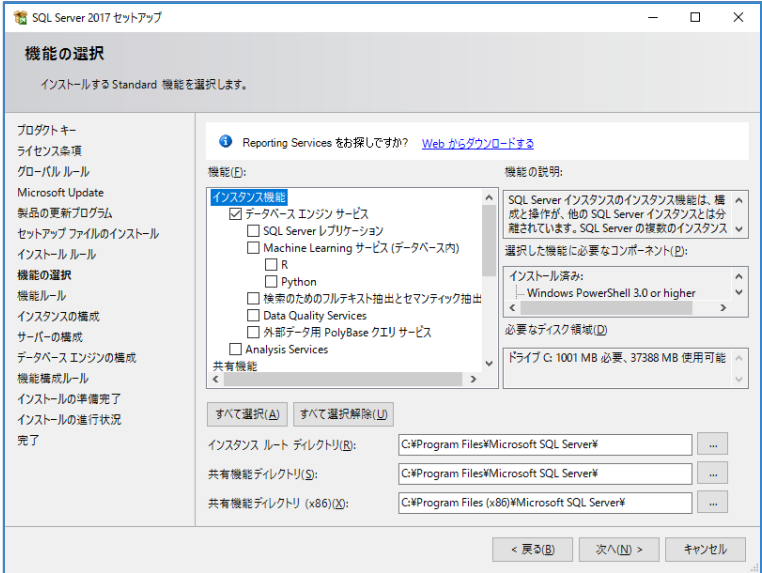
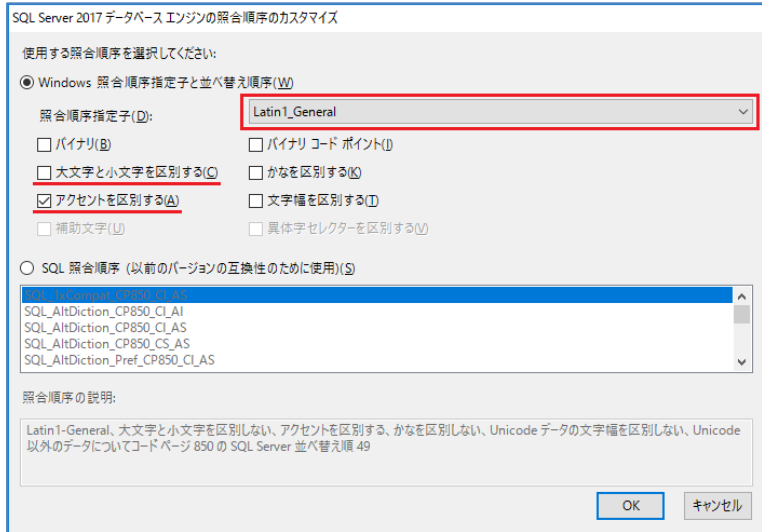
IIS マネージャーを起動し、サーバーホーム > サーバー証明書 > 自己署名入り証明書の作成をクリック

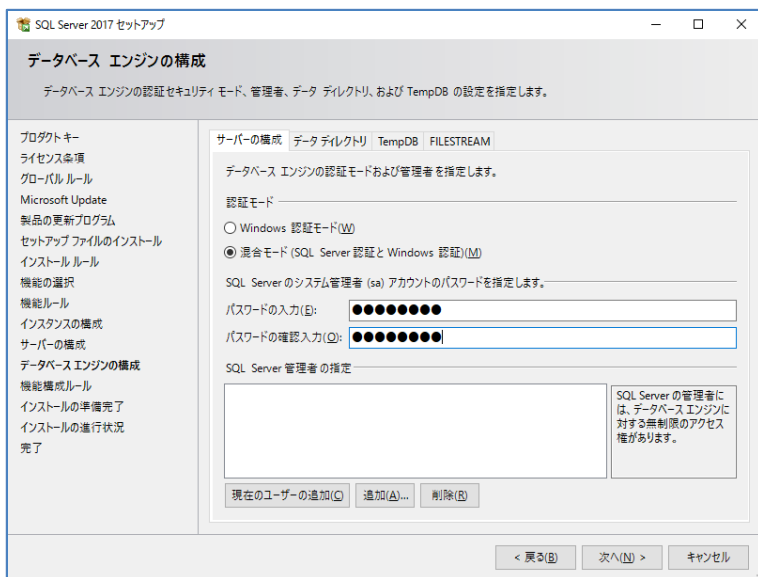


証明書のフレンドリ名として Orchestrator ホストの FQDN (servername.domain)を入力し、証明書ストアとして個人を指定し、OK をクリックします。

2.4. SQL Server のインストールと設定

- SQL Server インストールと設定には次の点に留意します。本文書では最低限の設定のみ示しており、冗長構成や大規模運用における最適な設定は別途考慮が必要となります。

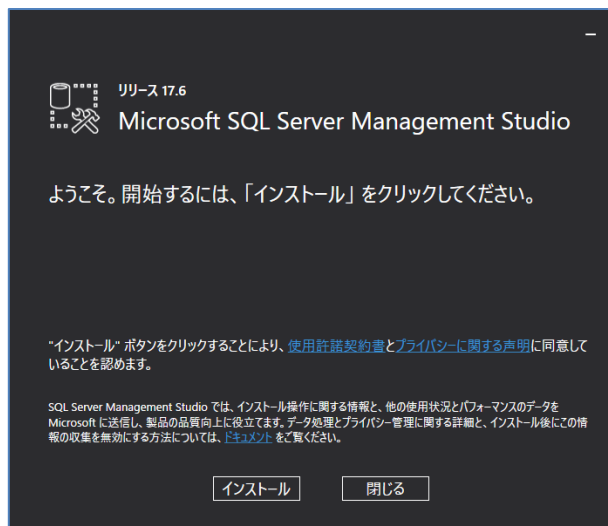
	必要最低限の機能はデータベースエンジンのみです。 必要に応じて追加機能を選択します。
	サーバー構成で [照合順序] > [カスタマイズ] をクリックし、下記の通り 照合順序を指定します。 ● 照合順序指定子: Latin1_General ● 大文字と小文字を区別する: オフ ● アクセントを区別する: オン OK をクリックし、照合順序が Latin1_General_CI_AS と表示されることを確認します。 ※ 既に構築済みの共用 SQL Server を利用する場合など照合順序を指定できない場合には、データベースを作成する際に照合順序を指定します。



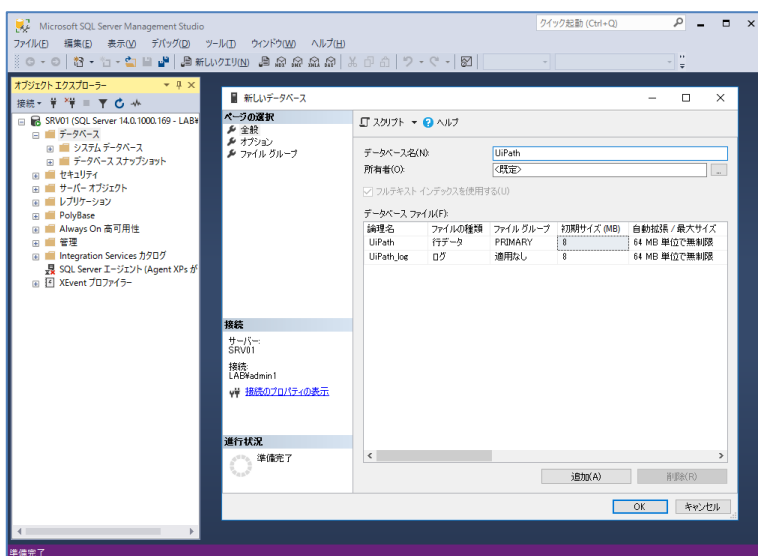
必要に応じて認証モードとして混合モードを有効にします。

認証モードの詳細については次のサイトを参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/relational-databases/security/choose-an-authentication-mode?view=sql-server-2017>



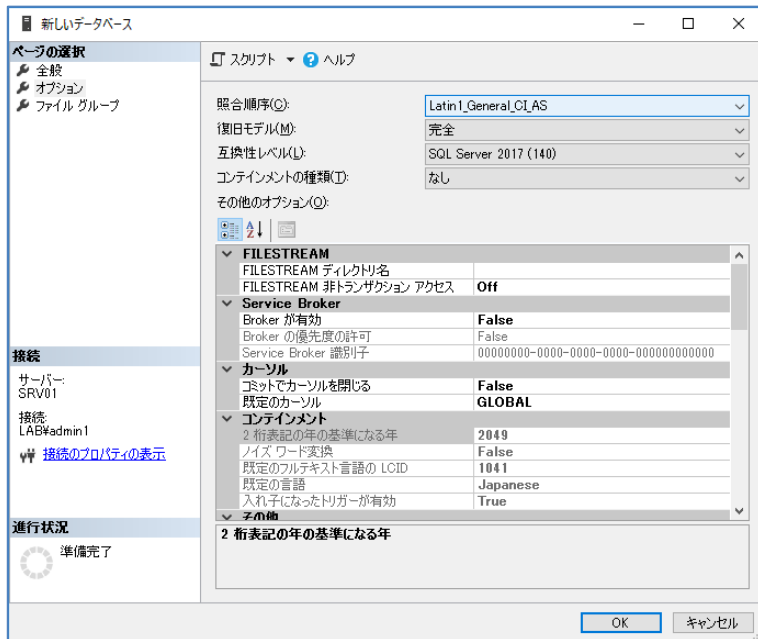
次に SSMS (SQL Server Management Studio) をインストールします。



Management Studio を使用して SQL Server にログインします。

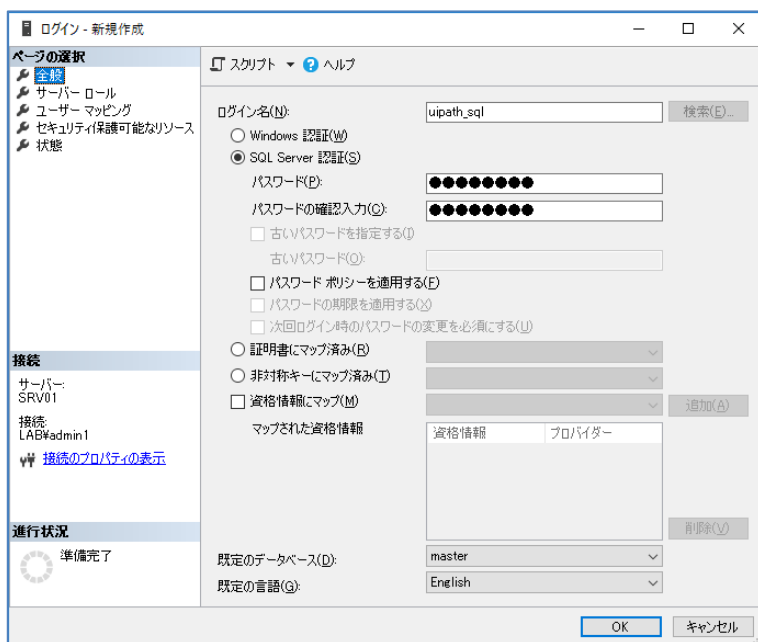
[データベース]>[新しいデータベース]をクリックし、"UiPath" という名前で DB をあらかじめ作成します。

OK をクリックする前に、オプションタブをクリックします。



照合順序として

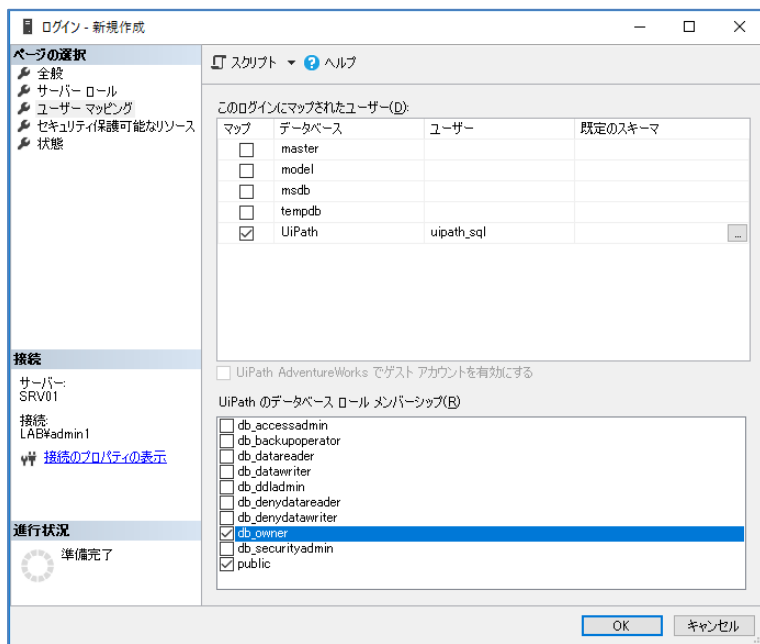
Latin1_General_CI_AS を選択し、OK をクリックします。



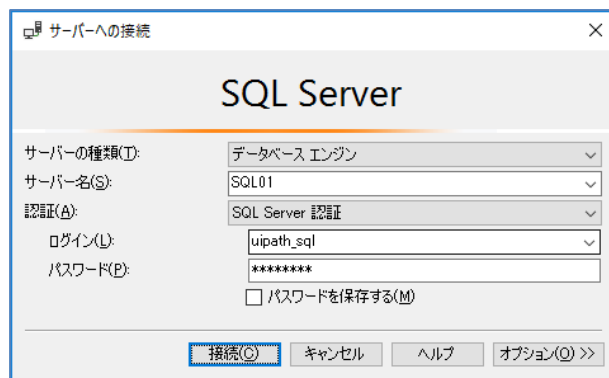
[セキュリティ]>[ログイン]>[新しいログイン]をクリックし、新しい管理ユーザーを Windows 認証または SQL Server 認証にて作成します。

更に既定の言語を **English** に設定します。

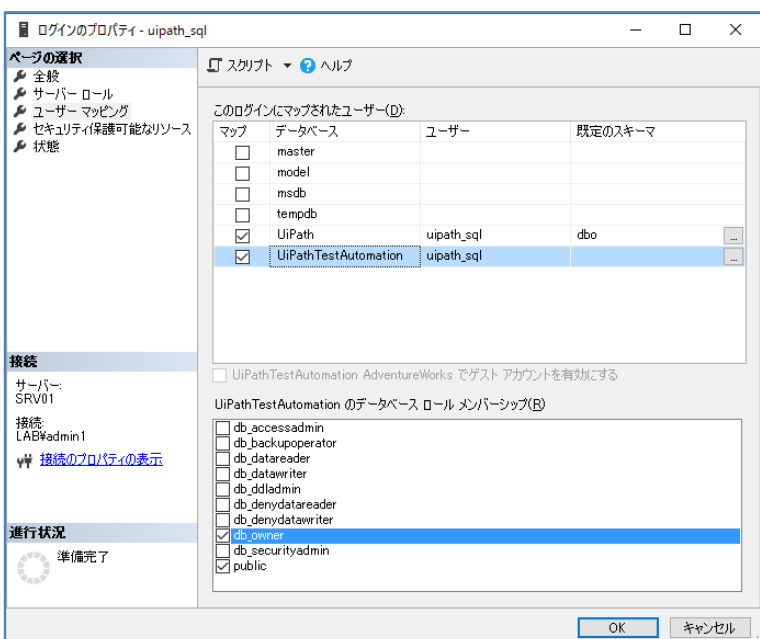
左図の例では“uipath_sql”というログイン名で SQL Server 認証を使用しています。



ユーザーマッピングにて **UiPath** データベースに対して **db_owner** ロールを付与します。



新しく作成したユーザーで SQL Server にログインできることを確認します。



【OC v2020.4 以降】 Test Automation の機能を使用する場合、“UiPath” データベースとは別に “UiPathTestAutomation” という名前でデータベースを作成し、上記と同じ手順により、このデータベースに対しても接続ユーザー (例では “uipath_sql”) に db_owner 権限を付与します。

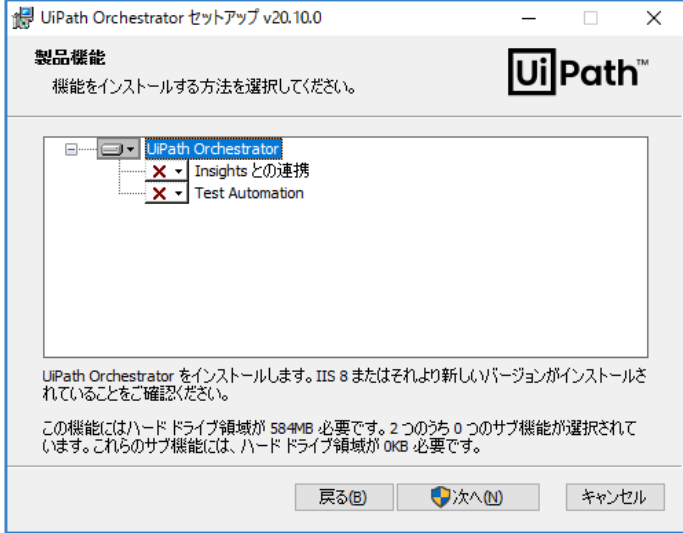
3. Orchestrator インストール手順

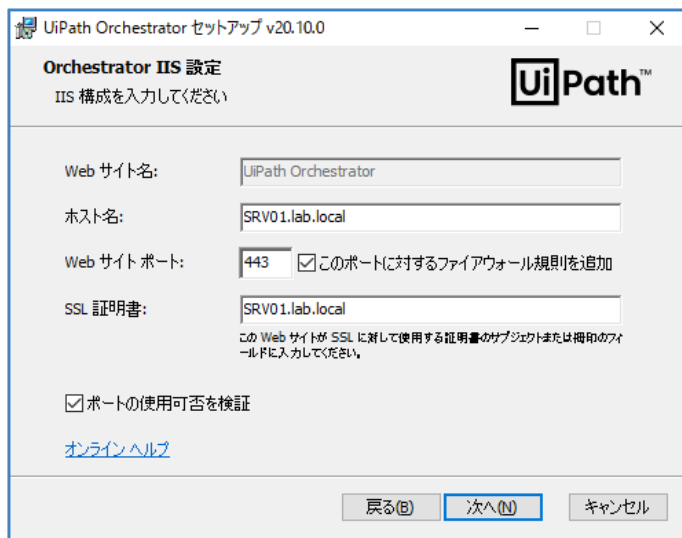
3.1. 構成に応じた手順の概要

- Orchestrator のインストール手順は冗長化構成有無により異なります。
 - 冗長化構成なし … [手順 3.2](#) 参照
 - 冗長化構成あり … 【OC v2019.10 以降】 [Web ガイド](#) または 【OC v2018.4】 [Web ガイド](#) 参照

3.2. Orchestrator インストール (スタンドアローン構成)

- MSI インストーラー **UiPathOrchestrator.msi** を使用して Orchestrator をインストールするには次の手順を実行します。詳細な手順は <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/orchestrator-the-windows-installer> をご参照ください。

	UiPathOrchestrator.msi を実行し、使用許諾契約書に同意し、[インストール] をクリックします。
	【OC v2020.4 以降】必要に応じてインストールする機能を選択します。 Test Automation を選択する場合には、あらかじめ “UiPathTestAutomation” という名前でデータベースを作成していることを確認します。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Orchestrator IIS 設定
IIS 構成を入力してください

Web サイト名:

ホスト名:

Web サイト ポート: ☒ このポートに対するファイアウォール規則を追加

SSL 証明書:
この Web サイトが SSL に対して使用する証明書のサブジェクトまたは機種のアイ
ールドに入力してください。

☒ ポートの使用可否を検証

[オンラインヘルプ](#)



ユーザー アカウント制御

この不明な発行元からのアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか?

UiPath.Orchestrator.Setup.ElevatedSetupTool.exe

発行元: 不明
ファイルの入手先: このコンピューター上のハードドライブ

[詳細を表示](#)

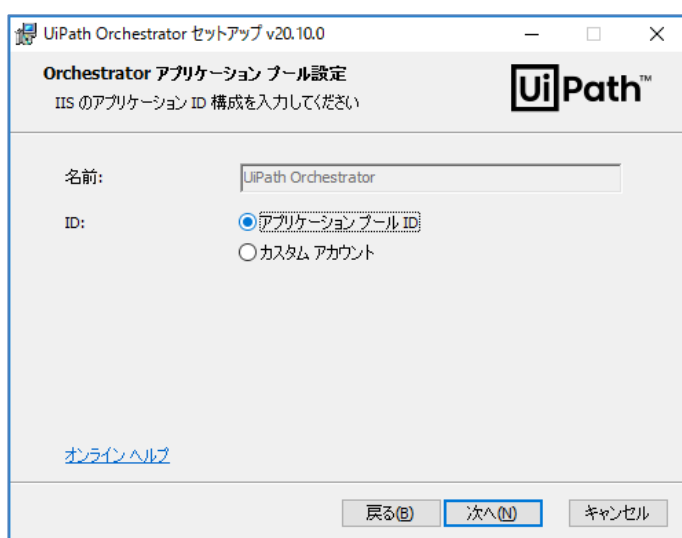
Orchestrator IIS 構成を確認し、[次へ] をクリックします。**UiPath.Orchestrator.Setup.ElevatedSetupTool.exe** の実行を許可します。

ホスト名は Orchestrator の接続 URL に含まれる FQDN を指定します。サーバー証明書のサブジェクト名と一致させます。

サーバー証明書が未作成の場合には[手順 2.3](#)を参照します。

SSL 証明書フィールドにはサーバー証明書のサブジェクト名を指定してください。

【OC v2020.4 以降】ドメイン証明書で「証明書がこのマシンで信頼されていません」のエラーが表示され、原因不明の場合には、一旦自己署名証明書を使用してインストールし、後ほど IIS マネージャのバインド設定でドメイン証明書に変更してください。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Orchestrator アプリケーション プール設定
IIS のアプリケーション ID 構成を入力してください

名前:

ID: ☒ アプリケーション プール ID
☐ カスタム アカウント

[オンラインヘルプ](#)

アプリケーションプール設定では、

- SQL Server に対して Windows 認証を使用する場合には、カスタムアカウントを指定し、SQL Server に権限のある Windows 資格情報を指定します。また NuGet パッケージの配置ディレクトリとしてファイルサーバーを指定する場合には読み取り/書き込み権限を持つユーザーを指定します。
- SQL Server 認証を使用する場合は、アプリケーションプール ID またはカスタムアカウントのいずれも指定することが可能です。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Orchestrator データベース設定
SQL Server 構成を入力してください

SQL Server ホスト:

データベース名:

認証モード:
☐ Windows 統合認証
☒ SQL Server 認証

ユーザー名:

パスワード:

[オンラインヘルプ](#)

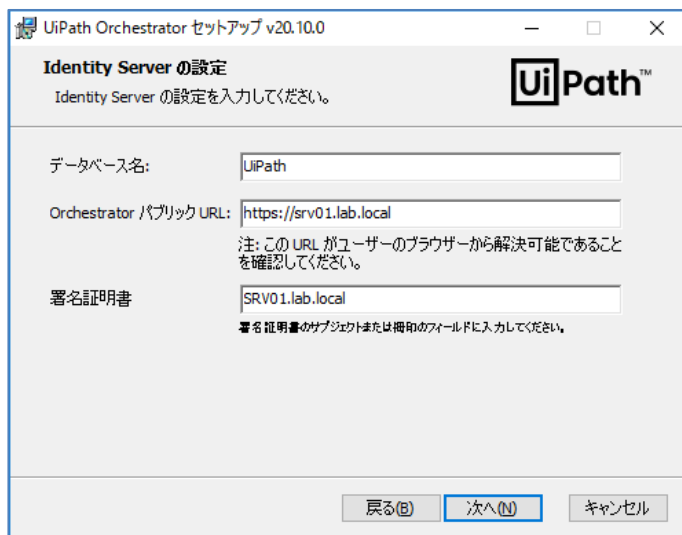
戻る(B) 次へ(N) キャンセル

SQL Server ホスト (名前付きインスタンスを使用する場合は **Server\Instance** 形式で指定)、データベース名、認証方式、アカウント情報を入力します。

接続エラーが発生する場合には、SQL Server 側にてリモート接続設定、ファイアウォールと接続アカウントを確認します。詳細な手順は次のサイトをご参照ください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/relational-databases/lesson-2-connecting-from-another-computer?view=sql-server-2017>

Windows 統合認証を指定した場合、現在 OS ログインのユーザーでデータベースが作成されることに注意してください。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Identity Server の設定
Identity Server の設定を入力してください。

データベース名:

Orchestrator パブリック URL:

注: この URL がユーザーのブラウザから解決可能であることを確認してください。

署名証明書:

署名証明書のサブジェクトまたは拇印のフィールドに入力してください。

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

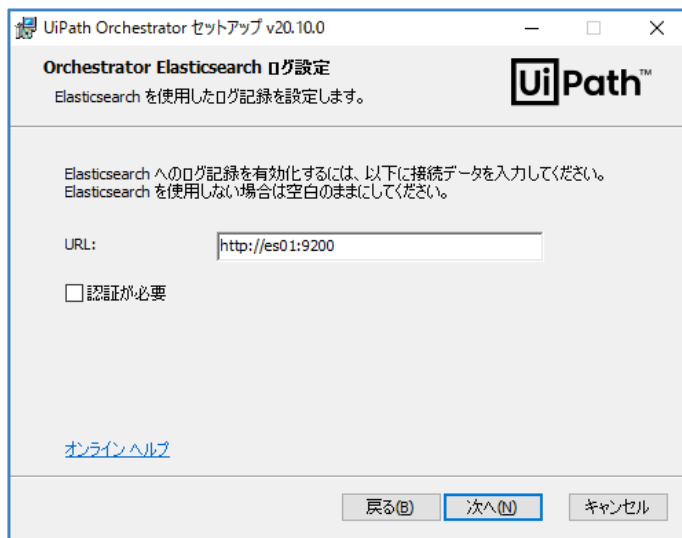
【OC v2020.4 以降】 Identity Server 設定を行います。

Orchestrator パブリック URL には、Orchestrator アクセス URL を入力します。

【OC v2020.10】 署名証明書にはサーバー証明書のサブジェクト名を入力します。同一サブジェクト名の証明書が複数存在する場合には拇印(Thumbprint)を指定します。

再度 **UiPath.Orchestrator.Setup.**

ElevatedSetupTool.exe の実行を許可します。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Orchestrator Elasticsearch ログ設定

Elasticsearch を使用したログ記録を設定します。

Elasticsearch へのログ記録を有効化するには、以下に接続データを入力してください。
Elasticsearch を使用しない場合は空白のままにしてください。

URL:

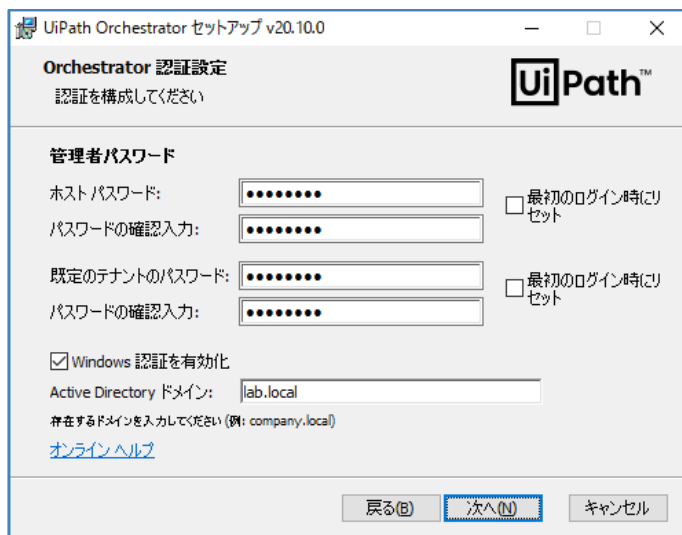
☐ 認証が必要

[オンラインヘルプ](#)

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

Elasticsearch を使用する場合には URL を指定します。

使用しない場合には空白のままにします。



UiPath Orchestrator セットアップ v20.10.0

Orchestrator 認証設定

認証を構成してください

管理者パスワード

ホストパスワード: ☐ 最初のログイン時にリセット

パスワードの確認入力:

既定のテナントのパスワード: ☐ 最初のログイン時にリセット

パスワードの確認入力:

☒ Windows 認証を有効化

Active Directory ドメイン:

存在するドメインを入力してください (例: company.local)

[オンラインヘルプ](#)

戻る(B) 次へ(N) キャンセル

【OC v2019.10 以降】 Orchestrator ホストパスワード (テナント管理ユーザーが使用) と既定のテナントのパスワードを指定します。

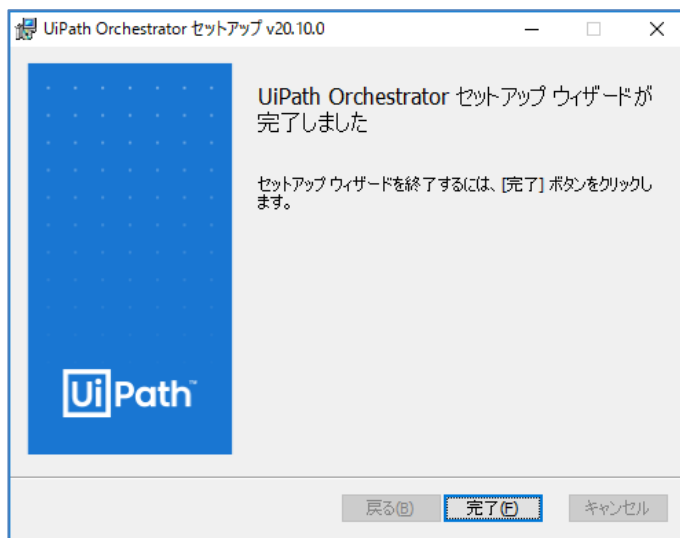
パスワードは 8 文字以上でアルファベット小文字と数字を含む必要があります。

Orchestrator へのログインに Windows 認証を使用する場合は、チェックをオンにし、ドメイン名を指定します。



インストールを開始します。

ユーザーアクセス制御 (UAC) のダイアログは [はい] を選択します。



インストールが正常に完了することを確認します。

既定のインストールディレクトリは
C:\Program Files (x86)\UiPath\Orchestratorです。

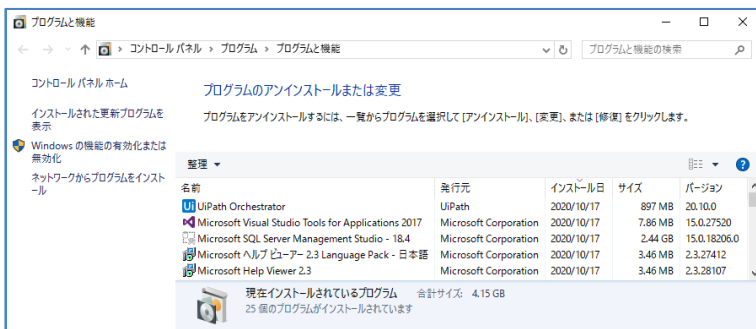
インストールが失敗する場合には、管理者権限で次のコマンドを実行しインストールログを取得します。

```
msiexec /i UiPathOrchestrator.msi /! *vx
UiPathInstall.log
```

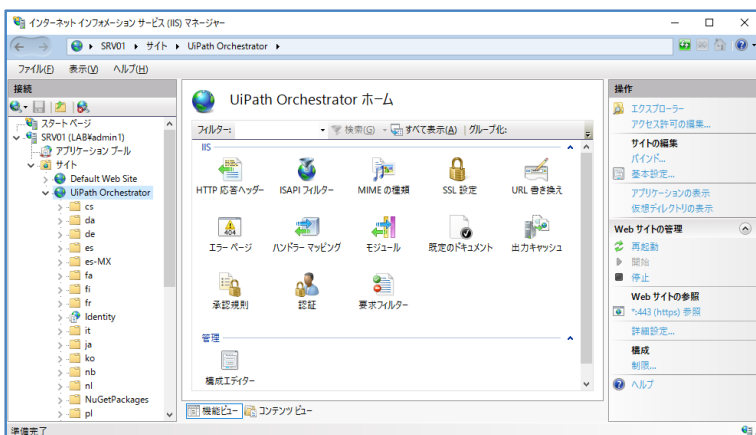
4. Orchestrator 動作確認と初期設定

4.1. Orchestrator インストール確認と初期設定

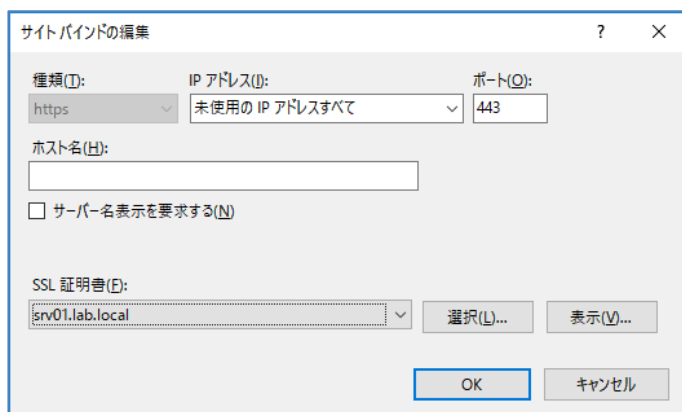
- 次の手順を実行して Orchestrator が正常にインストールされていることを確認します。



コントロール パネル\プログラム\プログラムと機能 (appwiz.cpl) で **UiPath Orchestrator** が表示されることを確認します。

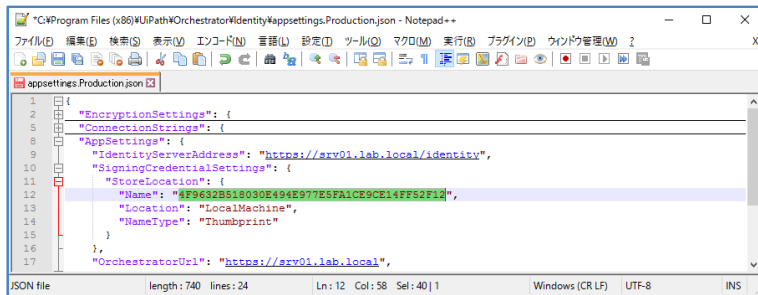


IIS 管理コンソールを開き、**UiPath Orchestrator** という名前でサイトが作成されていることを確認します。



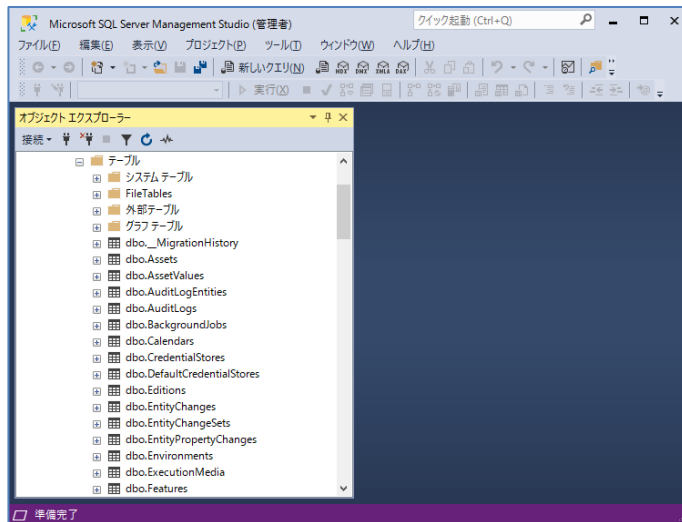
操作ペインのバインドをクリックし、https を編集、適切な SSL 証明書が選択されていることを確認します。
適切でない場合には手動で証明書を選択します。

またブラウザでアクセスする FQDN と実際のホスト名が異なる場合は、ホスト名を空白にして OK をクリックします。

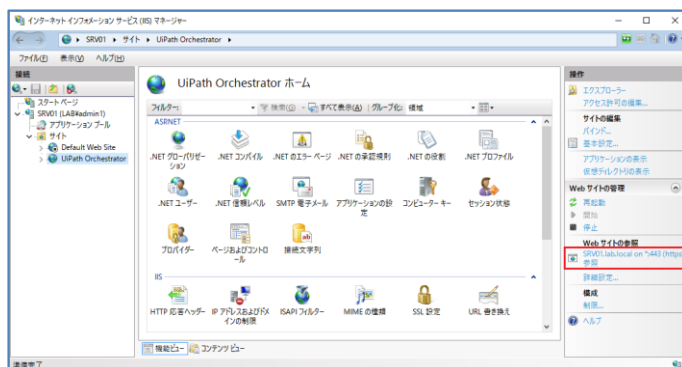


【OC v2020.4 以降】サーバー証明書を変更した場合、次の設定変更を行う必要があります。

1. [Web ガイド](#) > 「重要！」に記載されている手順を実行します。
2. [Web ガイド](#)に記載の PowerShell スクリプトを実行し、サーバー証明書に適切な権限を付与します。

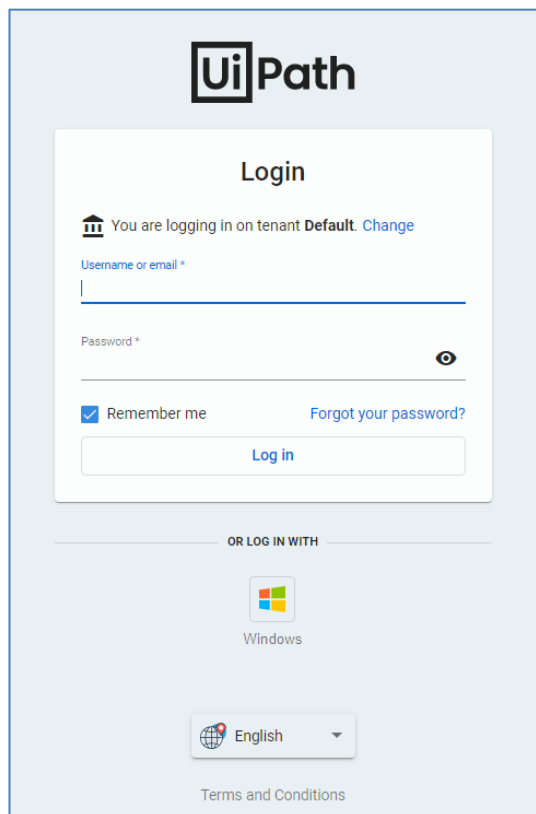


SQL Server Management Studio にて データベース > "UiPath" > テーブルを展開し、テーブルが作成されていることを確認します。



IIS マネージャーで UiPath Orchestrator サイトを選択し、[Web サイトの参照] 下のリンクをクリックします。

このサイトが Orchestrator のアクセス URL になります。



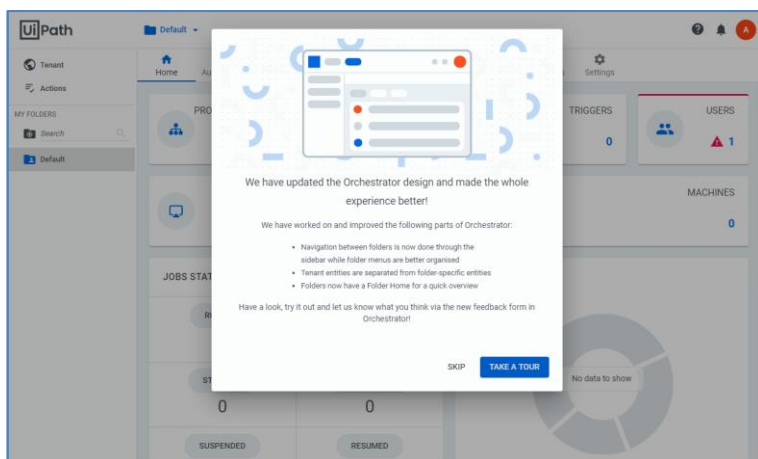
ログイン画面が正常に表示されることを確認します。

注意:

- IE11 を使用する場合は信頼済みサイトに追加します。
- インストール時に Windows 認証を有効にした場合、OR LOG IN WITH [Windows] が表示されます。

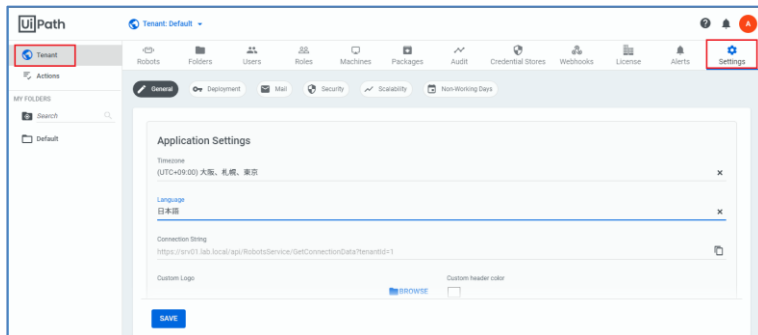
管理者アカウントで正常にログインできることを確認します。

- Tenant name: Default
- Username: admin
- Password:
 - 【OC v2019.10 以降】 <インストール時に指定した既定テナントのパスワード>
 - 【OC v2018.4】 890iop



【OC v2020.4 以前】ダッシュボードが表示されることを確認します。

【OC v2020.10】UI が新しいデザインに変更されたため、[TAKE A TOUR] でチュートリアルを開始するか [SKIP] でスキップします。このチュートリアルは右上のメニューから再度呼び出すことができます。

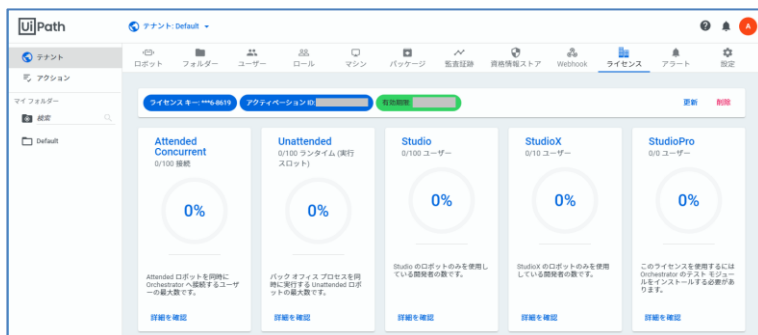


【OC v2020.4 以前】右上のユーザー > Settings を選択します。

【OC v2020.10】左上の Tenant をクリックし、右上のメニュー > Settings を選択します。

タイムゾーンを（**UTC+09:00**）大阪、札幌、東京 に設定し、SAVE します。

※ 必要に応じて Language を 日本語 に切り替えます。本文書では以降の説明は日本語の言語設定を前提とします。



【OC v2019.10 以降】Orchestrator 管理画面にてオンラインまたはオフラインにてアクティベーションが可能です。詳細な手順は [こちら](#) をご参照ください。

【OC v2018.4】[UiPath アクティベーションポータル](#) にてライセンスコードを入力しバージョンを選択して、アクティベーションを行い、ライセンスファイルを生成し、Orchestrator 管理画面にてアップロードします。詳細は [こちら](#) をご参照ください。

4.2. UiPath Robot / Studio との接続設定

- 次の手順により、Studio/Robot 端末と Orchestrator の接続設定を行います。



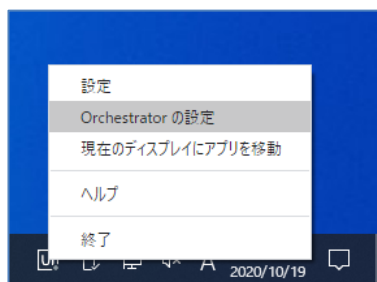
Orchestrator から UiPath Robot / Studio に接続するには、Orchestrator 管理コンソールでロボットのプロビジョニングを行います。

事前に標準マシンまたはマシンテンプレートを作成し、マシンキーを生成する必要があります。マシンキーは自動生成され、手動で変更することはできません。またモダンフォルダーではマシンテンプレートのみ使用可能です。

マシンまたはロボットを新規作成できない場合には、次のサイトを参照して Orchestrator のアクティベーションを行います。

<https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/activating-your-license>

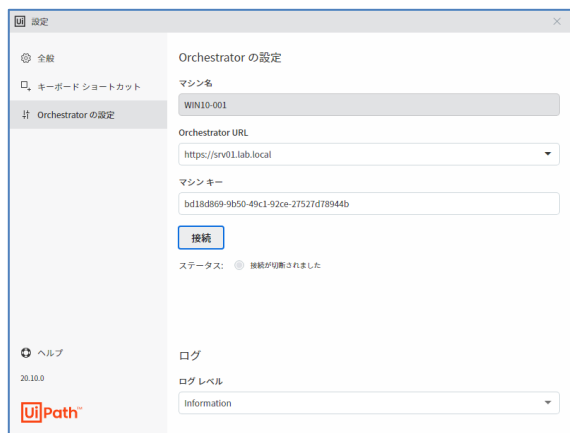
マシンキーをクリップボードにコピーしておきます。



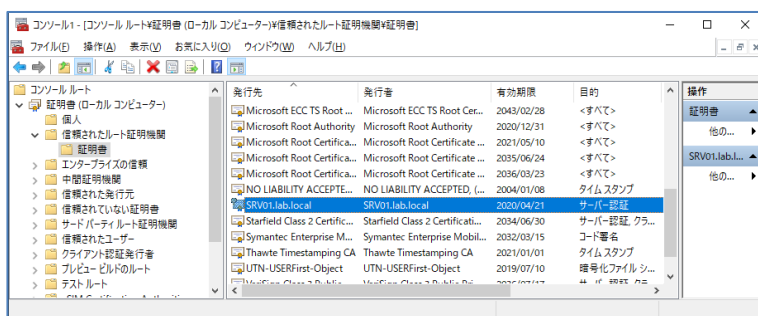
UiPath Robot がインストールされた端末に管理者でログインします。

【OC v2018.4】通知領域の Ui アイコンをクリック→歯車をクリック→Orchestrator の設定をクリックします。

【OC v2020.10 以降】通知領域の Ui アイコンを右クリック→Orchestrator の設定をクリックします。



先ほどコピーしたキーをマシンキーフィールドにペーストし、Orchestrator URL を入力し、接続ボタンをクリックします。



「検証プロセスによると、リモート証明書は無効です」または「この要求の送信中にエラーが発生しました」というエラーが発生する場合には、次のサイトを参照して、サーバー証明書を端末にインポートします。

<https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/using-a-certificate-for-the-https-protocol#exporting-self-signed-certificates>

※ 証明書ストアは現在のユーザーではなくローカルコンピューターであることに注意してください。

【クラシックフォルダー】



クラシックフォルダーでは Orchestrator 上でマシンキーを作成したマシンを使用して標準ロボットを登録し、状態が利用可能と表示されることを確認します。

【モダンフォルダー】



モダンフォルダーではマシンテンプレート>その他のアクション>インストールされたバージョンをクリックし、状態が利用可能と表示されることを確認します。

5. 技術支援のご案内

- UiPath 社では Orchestrator および周辺のテクノロジーに関わる技術支援の有償コンサルティングサービスを提供しております。下記のような課題に対して技術支援が必要なお客様は弊社担当営業までご相談ください。
 - Orchestrator 設計・構築・運用
 - ✧ シングル構成または冗長構成での導入支援
 - ✧ オンプレミスまたはパブリッククラウド環境への導入支援
 - Orchestrator / Studio / Robot のバージョンアップ
 - ✧ ベストプラクティスに基づくバージョンアップ作業手順の策定支援
 - Elasticsearch / Kibana 導入・活用
 - ✧ ダッシュボード作成によるログ可視化の活用支援

以上